

**平成27年度
インターネットサービス実施計画**

日本放送協会

平成27年3月10日

目 次

はじめに	2
基本方針	2
第1部 受信料を財源とするサービス	
1. 受信料を財源とし、広く一般の視聴者に提供するサービス（2号受信料財源業務）	
(1) 国内放送関係	4
(2) 国際放送関係	10
(3) 試験的な提供について	12
(4) 2号受信料財源業務の費用	12
2. 受信料を財源とし、事業者等へ提供するサービス（3号受信料財源業務）	
(1) 国内放送関係	13
(2) 国際放送関係	13
(3) 3号受信料財源業務の費用	14
第2部 有料で行うサービス	
1. 利用料金を財源とし、一般の利用者向けに有料で提供するサービス（2号有料業務（NHKオンデマンド））	14
2. 有料で事業者等へ提供するサービス（3号有料業務）	15
3. 2号有料、3号有料業務の収支	15
第3部 実施状況に関する資料の作成および評価について	16
第4部 インターネット活用業務に関する競合事業者からの意見・苦情等への対応について	16

はじめに

この実施計画は、NHKのインターネット活用業務の実施基準（放送法第20条第2項第2号および第3号の業務の実施基準）に基づき、平成27年度に実施するNHKのインターネットサービスの内容を示すものです。

〔実施の期日〕平成27年4月1日（水）から実施

基本方針

平成27年度は「信頼をより確かに、未来へつなぐ創造の力」を掲げた新3か年経営計画の最初の年であると同時に、改正放送法の施行・新実施基準のもとでインターネットサービスを実施する1年目となります。

少子高齢化・相次ぐ自然災害など、視聴者を取り巻く環境が変化する中で、公共放送NHKは、さまざまな情報、とりわけ防災・減災などの安全・安心につながる情報をできるかぎり多様な伝送路で伝えるとともに、不確かな情報の拡散やお互いの“つながり”の希薄化も指摘される社会において、人と人とを正確な情報でつなぐ「情報の社会的基盤」としての役割を果たしていきたいと考えています。

そして、2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピックで、インターネットの持つ特性を最大限に発揮し、放送との両輪で世界最高水準のサービスを実現することを目指して、今からさまざまな課題の検討とその解決に向けた取り組みに着手する必要があります。

放送法改正により、NHKのインターネット活用業務の可能性が広がりました。NHKは、実施基準にのっとり実施計画を立て、サ

ービスの内容や費用を明示して、インターネットサービスの強化に取り組めます。放送を太い幹としつつ、技術革新と変化が著しく速いインターネットの世界に対応してより効果的・効率的なサービスを実現するために、絶えず既存サービスを見直し、“選択と集中”を図りながら、公共性の高い魅力的なサービスを提供します。

平成27年度、NHKは、多様で意義のあるサービスを開発・実施し、「公共メディア」への進化を見据えた取り組みを着実に推進していきます。

第1部 受信料を財源とするサービス

1. 受信料を財源とし、広く一般の視聴者に提供するサービス（2号受信料財源業務）

（1）国内放送関係

○ニュース・災害情報発信の強化

●NHKのニュース・災害情報については、いつでもどこでも利用できるように、多様な伝送路と端末で、正確かつ迅速に配信し、国民の信頼に応えます。

（主なコンテンツ、サービス）

「NHK NEWS WEB」ホームページ

「NHKスポーツオンライン」ホームページ

「NHK気象・災害情報」ホームページ

●「放送中番組」の提供

災害時における国民の生命・財産の保護等に資するための情報など、国民生活や社会全体に大きな影響を及ぼす情報で、特に迅速に提供すべきものを伝える国内テレビの緊急ニュースをNHKオンライン等で、放送と同時に提供することがあります。

提供した緊急ニュースの内容および提供時間は、実施のつど、NHKオンラインで公表します。

なお、平時において、災害時における放送中番組の提供に関連する訓練を行うことがあります。

（主な実施想定例）

「大きな被害が発生、または発生が想定される自然災害等を伝えるニュースを放送する場合」

- ニュース関連映像等のリアルタイム提供

国民的関心の特に高いニュースに関連する現場映像・音声等を、番組の内容を解説・補足する理解増進情報として、リアルタイムで提供することがあります。

(主な実施想定例)

「大規模な自然災害時のロボットカメラ映像・音声」

「国民的関心の高い事件、事故、出来事等の現場映像・音声」

- 急速に普及するスマートフォンへの対応

安全・安心に役立つ情報や災害・避難所・ライフライン情報、ニュースを提供するアプリの開発に取り組みます。

(開発を進めるサービス)

「防災・ニュース」アプリ

- 教育分野の充実・強化

- 学校放送コンテンツや、幼児・青少年向けコンテンツのいっそうの充実に取り組み、放送と連動し、視聴者の“知りたい”“学びたい”に応えます。特に学校放送番組を提供しているポータルサイト「NHK for School」のサービス改善を進めていきます。

(主なコンテンツ、サービス)

「NHK for School」ポータルサイト

「キッズワールド」ポータルサイト

「ビットワールド」ホームページ

- 「NHK for School」アプリ化の推進

義務教育におけるデジタル環境の整備で、小中学校へのタブレッ

ト普及が拡大しています。学校放送番組のポータルサイト「NHK for School」が小中学校に整備されるすべてのタブレットで利用可能となることを目指して、子どもたちにとって使いやすい最適化とアプリ化を進めていきます。

- 新サービス「予習コンテンツ」と「教育アーカイブス」

「NHK for School」の中で、子どもたちが予習をしたり、教師が授業の準備を行えるよう、放送後の番組に加え、放送前の学校放送番組の内容を紹介するコンテンツを提供します。また、「えいごリアン」「おはなしのくに」などすでに放送を終了した番組のうち、学校からのニーズが高いコンテンツの一部を動画配信するサービスを開始します。

- 番組内容の理解を深める質の高いコンテンツの提供

- 番組の周知・広報や、内容を解説・補足するコンテンツを充実します。

(主なコンテンツ、サービス)

「あさイチ」ホームページ

「クローズアップ現代」ホームページ

「コレ見て！ムービー」ホームページ

「ダーウィンが来た！生きもの新伝説」ホームページ

「ためしてガッテン」ホームページ

「花燃ゆー大河ドラマー」ホームページ

「ブラタモリ」ホームページ

「まれー連続テレビ小説ー」ホームページ

- 「NHKスペシャル」などの大型番組やビッグデータといわれる

膨大な情報を分析する番組と連動して、取材データや放送で使用したCG（コンピューターグラフィックス）等を活用して、質の高い、また暮らしに役立つデジタルサービスを提供します。

（主なコンテンツ、サービス）

「NHKスペシャル」ホームページ

「デジタル特集」ホームページ

「データなび 世界の明日を読む」ホームページ

●NHKが主催または共催し公開収録を行う一部の番組で、番組の内容を解説・補足する理解増進情報として、収録時の映像・音声をリアルタイムで提供することがあります。

（主なコンテンツ、サービス）

「NHK全国学校音楽コンクール」「高専・学生ロボコン」

●NHKが放送の対象としている一部のイベントについて、リアルタイムで放送していない映像・音声等を、番組の内容を解説・補足する理解増進情報として、インターネットでリアルタイムで提供することがあります。

（主な実施想定例）

「NHKがインターネット配信の権利を有するスポーツイベント」

「放送予定のある地域イベント」

●地上・BS、ワンセグのデータ放送を入り口としたインターネット接続サービス（NHKデータオンライン）では、引き続き双方向番組等を展開し、テレビ受信機のインターネット接続の推進を図るとともに、番組の視聴促進に努めます。

（主なコンテンツ、サービス）

「Let's 天才てれびくん」双方向番組演出

●NHKが保存しているニュースや番組等の映像記録のうち、特に社会的意義が認められるものについてインターネットで公開します。

このほか、NHKアーカイブスの番組や番組素材から、映像・音声の一部をメディアリテラシーの基本を身につけるための創作用素材として提供します。

(主なコンテンツ、サービス)

「NHKアーカイブス」ポータルサイト

「戦争証言アーカイブス」ポータルサイト

「NHKクリエイティブ・ライブラリー」ホームページ

○効果的で魅力的なハイブリッドキャスト展開

●ハイブリッドキャストでは、24時間いつでも見られる暮らしに役立つコンテンツを充実するとともに、テレビ4波の定時番組や、特集、スポーツ中継等で、早戻しサービスや、タブレット等の携帯端末と連携した、ハイブリッドキャストならではのサービスを提供します。

(主なコンテンツ、サービス)

「ニュース」、「気象情報」、「スポーツ情報」、「ビジネス情報」、

「番組表」、「そなえる防災」、「おはなしのくに」、「きょうの料理」

「あさイチ」、「しごとの基礎英語アンコール」、「経済フロンティア」、

「世界ふれあい街歩き」

○ラジオのインターネットサービスの利便性向上

●ラジオ第1放送、ラジオ第2放送およびFM放送の放送中番組を提供する「らじる★らじる」のサービスと、ラジオ番組のオンデマ

ンド配信やポッドキャストのサービスを統合し、聴取者の利便性の向上を図ります。

(主なコンテンツ、サービス)

「らじる★らじる」(音声波の同時提供)

「ニュース」、「高校講座」、「語学講座」等のオンデマンド配信サービス

「ニュース」、「やさしい日本語」等のポッドキャストサービス

○ジャンル別ポータルサイトの利便性向上

●テレビ、ラジオの各波を横断して放送予定や見どころを伝えるジャンル別のポータルサイトを充実・強化します。

(主なコンテンツ、サービス)

「NHKアニメワールド」ポータルサイト

「NHKクラシック」ポータルサイト

「NHK自然NATURE」ポータルサイト

「NHKどーがステーション」ポータルサイト

「NHKドキュメンタリー」ポータルサイト

「NHKドラマ」ポータルサイト

「NHK福祉ポータル・ハートネット」ポータルサイト

●語学番組ホームページの利用履歴を活用して、継続的・体系的学習を可能にするサービスや、健康番組の関連情報を整理して利便性を高めるサービスを提供します。

(主なコンテンツ、サービス)

「マイ語学」サービス

「マイ健康」サービス

○地域放送局のインターネットサービス

全国の放送局は、地域の「安全・安心の拠点」として、いざというときに防災・減災のための情報やライフライン情報などをインターネットでも正確・迅速に伝えます。

また、全国各地の放送済みのニュース動画の一部をインターネットで提供するなど、引き続き地域の情報発信に取り組むとともに、地域の魅力も全国に伝えます。

(主なコンテンツ、サービス)

「各地域放送局」ホームページ

「各地のニュース」ホームページ

「地域発ドラマ」ホームページ

○“人にやさしい”サービスの実施

手話ニュースの動画提供や在日外国人にもわかりやすい“やさしい日本語”で伝えるニュースなど、最新の技術を使った“人にやさしい”サービスをインターネットでも提供します。

(主なコンテンツ、サービス)

「NHK手話ニュース」ホームページ

「NEWS WEB EASY」ホームページ

(2) 国際放送関係

○「NHKワールド・オンライン」ホームページの全面刷新等

外国人向けテレビ国際放送「NHKワールドTV」の充実強化にあわせ、「NHKワールド・オンライン」ホームページを全面的に刷新し、番組情報等を充実するなど視聴者の利便性を高めます。

また、国際放送開始80年を迎え、ラジオ日本の関連番組紹介や

投稿募集を行う特設ホームページをオープンします。

(主なコンテンツ、サービス)

「NHKワールド・オンライン」ホームページ

「国際放送開始80年」ホームページ

「やさしい日本語」ホームページ

○NHKワールドTVの放送同時提供とオンデマンド提供

NHKワールドTVについては、放送と同時にインターネットで提供します。また、世界の視聴者からの強い要望に応え、「見逃しサービス」を中心とする放送済み番組のビデオ・オン・デマンド（VOD）提供を開始します。スマートフォン向けのNHKワールドTV視聴アプリは、放送同時提供に加え、ニュース記事やオンデマンド動画の閲覧も可能にするなど、機能を拡充します。

(主なコンテンツ、サービス)

「NHKワールドTV」放送同時提供

「NHKワールドTV」オンデマンド提供

「NHKワールドTV」視聴アプリ

○ラジオ日本の放送同時提供とオンデマンド提供

ラジオ日本では、「ニュース」等を18言語によりインターネットで放送と同時提供するとともに、オンデマンドでも番組を提供します。

(主なコンテンツ、サービス)

「ラジオ日本」放送同時提供

「ラジオ日本」オンデマンド提供

「ラジオ日本」聴取アプリ

(3) 試験的な提供について

○インターネット実施基準に基づき、次の2つの項目について、現行の受信料制度を踏まえ、効率的に実施します。提供にあたっては実施日時(期間)、提供内容、費用等を含む試験計画を事前に作成し、公表します。

試験的に提供した番組とその提供期間、試験結果については、試験的な提供が終了するつど、NHKオンラインで公表します。

・試験的提供A

国内テレビジョン放送(総合テレビジョン、教育テレビジョン)で放送するスポーツイベントにおいて、インターネット配信の権利を保有しているもののうち、放送と同時に提供することが適当と認められるものについて、イベントの主催団体の了解を得たうえで、実施します。

対象イベントは年間5件程度(1日あたり最大4時間程度)を超えない範囲で実施します。

・試験的提供B

国内テレビジョン放送(総合テレビジョン)について1回の提供期間としては、1日16時間以内で1か月程度とします。

対象は受信契約者(その世帯構成員を含む)から募集した数千人から1万人以内とします。

(4) 2号受信料財源業務の費用

2号受信料財源業務の費用は、受信料収入の1.9%にあたる123

億円です。内訳は、物件費が88億円、減価償却費が3億円、人件費が31億円で、物件費のうち、国内放送関係は72億円、国際放送関係は15億円です。

国内放送関係の72億円の内訳は、番組ホームページの制作・更新、アプリや新サービスの開発、ハイブリッドキャストコンテンツの制作など、コンテンツ関連が56億円、サーバー・ネットワークの構築や制作システムの整備などインフラ関連が16億円です。

国際放送関係の15億円の内訳は、コンテンツ関連が10億円、インフラ関連が5億円です。

※「(3) 試験的な提供」の費用は、2.5億円で、国内放送関係に含まれます。

2. 受信料を財源とし、事業者等へ提供するサービス（3号受信料財源業務）

(1) 国内放送関係

○国内事業者への提供

災害時等には、他のインターネット事業者からの申し出に基づき緊急ニュースを提供し、当該事業者が放送と同時に提供することを認める場合があります。また、公共放送として特に意義のある過去番組等について、他の事業者に提供する場合があります。

(主なコンテンツ、サービス)

「災害時等における事業者等への情報提供・同時配信」

「平和アーカイブス」関連番組の提供（一部）

(2) 国際放送関係

○受信環境整備としての海外事業者への提供

NHKの国際放送について、より多くの海外の視聴者に見ていた

だけのようにする施策の一環として、ライブストリーミングやビデオ・オン・デマンド（VOD）事業を行う海外の事業者に国際放送番組を提供することがあります。

（3）3号受信料財源業務の費用

これらの業務の費用は0.5億円を想定しています。

第2部 有料で行うサービス

1. 利用料金を財源とし、一般の利用者向けに有料で提供するサービス（2号有料業務（NHKオンデマンド））

○NHKオンデマンドサービス

NHKが国内で放送した番組およびその理解増進につながる情報などを、一般の利用者向けに提供する会員制有料動画配信サービスです。

平成27年度も引き続き、コンテンツの充実や利便性の向上に努め、利用者の拡充を目指してサービスの向上に取り組めます。

（サービスの種類と契約種別）

●サービスの種類

【見逃し番組サービス】

「大河ドラマ」「連続テレビ小説」や「NHKニュース7」「ニュースウオッチ9」などNHKで放送している人気番組などを、放送から1～3週間程度のあらかじめ定めた期間、提供します。

【過去番組サービス（特選ライブラリー）】

過去の名作ドラマや大型ドキュメンタリー番組など、見逃し番組サービスで提供する放送番組よりも過去の放送番組等を一定期間ま

たは期間を定めずに提供します。

●契約種別

【単品等】

放送番組等の中から1本または複数本をまとめたパックを単位に、そのつど課金して利用可能とするものです。

【見放題パック】

個々の放送番組等の入れ替わりがあることを前提とした特定範囲の複数本の放送番組等を一括対象とし、一定期間、利用可能とするものです。

2. 有料で事業者等へ提供するサービス（3号有料業務）

○ビデオ・オン・デマンド（VOD）事業者への番組提供

NHKが国内で放送した番組などを、ビデオ・オン・デマンド（VOD）事業を行っている対象事業者から求めがあった場合、公共放送への信頼を損なわないことを前提に、「放送番組等有料配信業務勘定」の健全な収支や2号有料業務との関係などを総合的に考慮して、有料で提供します。

3. 2号有料、3号有料業務の収支

2号有料業務および3号有料業務は、区分経理の対象であり、「放送番組等有料配信業務勘定」として計理されます。

「放送番組等有料配信業務勘定」の予算では、事業収入は21億円、事業支出は21億円で、事業収支差金は0.1億円です。そのうち、3号有料業務に係る事業収入および事業支出は、共に1.5億円です。

第3部 実施状況に関する資料の作成および評価について

この実施計画に記載した業務の実施状況については、年度終了後に、収支を含めた実施結果を作成し公表します。

また、技術の発達、需要の動向、市場競争への影響、受信料の公平負担との関係その他の事項を勘案して、多角的な評価を行い、サービスの充実、改善に役立てていきます。

実施計画は必要に応じて、年度途中に変更することがあります。

第4部 インターネット活用業務に関する競合事業者からの意見・苦情等への対応について

この実施計画に基づき実施するインターネット活用業務の遂行状況について、同種のサービスを行う事業者または外部事業者からご意見、苦情等が寄せられたときには、実施基準にのっとり、外部委員からなる「インターネット活用業務 審査・評価委員会」に検討を求め、その結果を尊重して、必要な措置を講じます。

今回の実施計画の策定にあたって、市場競争の影響について考慮し、今回の実施計画の内容であれば、特段問題ないと判断しました。この判断にあたっては、「インターネット活用業務 審査・評価委員会」の見解をいただきました。

今後、実施結果の評価を行うにあたって、必要に応じて「インターネット活用業務 審査・評価委員会」の見解をいただきます。